



会員の輪

「僕が生きた証を残せる場所」

飯南町頓原公民館主事 景山良一（飯南町）

かげやまりょういち

今回ご紹介するあすてらすネットワーク会員は、飯南町にお住まいの景山良一さんです。公民館の主事として、子ども達と接する日常で感じられる男女共同参画に関する思いや気づきを寄稿いただきました。



* 自分もいつかは *



景山さん

飯南町頓原公民館の主事として2年目となりました。以前より地域の先輩方の姿をみて「自分もいつかは町の活性化のために力を発揮したい」なんて思っていた矢先の『公民館主事募集』。これはチャンスだ、と思い飛び込んだこの世界は、「僕が生きた証を残せる場所」と思って日々従事しています。

僕は『男らしさ』や、『女らしさ』とは、大人が、都合のいいように子ども達に押しつけてしまっているのではないかと感じます。もちろん、全てのこと



* 自分のことは自分でする力 *

通学合宿は子ども達が普段体験することが少ないと思われる“家事労働”に視点を置き、極力大人が手助けをせず、自立心養成・生活技能の習得を目的に行っています。食事の準備や食器の片付け、洗濯など、自分の身の回りのことは極力自分で行う。将来独り暮らしを始める子ども達もいると思います。そうした時に『自分のことは、自分でする』という力が備わっていないと生活できません。特に『食』は重要だと考えています。近年『食育』ということが強く叫ばれていますが、「食べることは、生きること」と知ってもらいたいです。また、家庭を持ったときに「男（女）だから」と言うのではなく、誰もが『自分のことは、自分でする』という精神であれば、それがよりよい男女共同参画の実現に繋がっていくのではないでしょう。



通学合宿での食事準備の様子



* 子ども対象事業を通じて *

頓原公民館は開館して18年目になりますが、開館当初より『子ども対象事業』が盛んな公民館です。これは、頓原公民館が小学校の登下校途中にあり、子ども達が気軽に立ち寄れる場所になっているからだと考えています。なので“放課後の子どもの居場所事業”“通学合宿”“児童体験活動”など様々な事業



を通して子ども達と日々、接しています。そんな中、「やっぱり男の子だな～（女の子だな～）」と、

思う局面があります。しかし時にはどちらが男の子、女の子、なんて思わせる日もあります。おそらく、こうした現場に遭遇しては「女の子らしくしなさい」や「男のくせに」なんて言葉かけが“らしさ”の強要に繋がるのだと思い、言わないようにしています。





[分類番号: 女性問題 384.6 ホ]

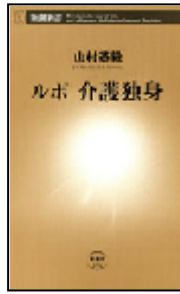
**女子のためのお江戸案内
恋とおしゃれと生き方と**

堀江宏樹 / 著

廣済堂出版 (2014/8)

江戸時代の恋愛模様やスキャンダル、医療に至るまで女子が知りたい内容が盛り沢山。マンガ入りなので分かり易くあっという間に読めてしまう。奔放な江戸っ娘の粋が満載で現代女子との共通点も多い。生活の知恵の先駆的なものもあり、読後はちょっとした雑学博士になった気分。女子のためにと言わず色んな方にオススメしたい一冊。とにかく面白い。

(はっしー)



[分類番号: 367.4 ヤ]

「ルポ 介護独身」

山村基毅 / 著

新潮新書 (2014/6)

非婚・少子化と超高齢化が同時進行するなかで独身の介護者が急増しているという。突然やってきて、先が見えにくいのが介護。本書は独身介護者を多数取材し「見えざる人々」をあらわにしたルポである。介護疲れによる悲惨な事件が頻発する昨今、その当事者になりかねなかったと語る言葉は重い。目新しく感じたのは、結婚に踏み切れない彼・彼女らに「事実婚」を視野に入れることを提言していること。ぜひ一読を。

(まゆ)



[分類番号: 女性問題 369.42]

**「子育て」という政治
少子化なのになぜ待機児童が生まれるのか？**

猪熊弘子 / 著

株式会社KADOKAWA (2014/7)

2013年に話題となった横浜市「待機児童ゼロ」達成。しかし、長年子育ての現場を取材してきた著者は、これには数字のマジックと、政治的なトリックが隠されているという。「少子化なのになぜ待機児童が生まれるのか」この問題を、保育士不足、子育て支援制度など、さまざまな視点から検証。どうすれば、誰もが希望する保育所に安心して子どもを預けられるようになるのだろうか、そんな疑問にヒントをくれる一冊である。

(なな)



information

情報ライブラリーでは、所蔵資料を紹介する目的で毎月テーマを決めて書籍等の展示・貸出を行っています。3月のテーマは「女性の健康週間(3月1日~8日)特集」です。テーマ展示や新着図書、DVD等の情報はホームページで随時お知らせしています。どうぞご利用ください。 <http://www.asuterasu-shimane.or.jp/lib/>

編集委員のつぶやき

実母が家で転倒し頭部裂傷の大ケガ。私1人の介護では対応しきれず、さりとて夫には負担をかけづらく、要介護2の親を施設に。「介護は女が」の壁を乗り越えられず、苦渋の決断。今は心の壁と葛藤の日々...。(はっしー)

“明日は明日の風が吹く”歩みの私にも、心がどちらに向いているのかを確認する節目の年。書初めは「のんき」、おみくじは大吉、初笑いは「子麒麟のうたたね」、幸せ祈願です。(白くま)

昨年、ボウリング同好会を立ち上げた。自らが転がったほうが早いような高齢者の面々。たまのストライクにガッツポーズ!! つくづく健康とはありがたいな~、と思う昨今です。(ま~)

情報Market編集委員に仲間入りして6年が経った。当初からの心地よい関係はますます揺るぎないものになり、楽しく活動をさせていただいている。愉快的な仲間たちに感謝である。(まゆ)

あなたの情報をお待ちしています!

本紙の内容について、ご意見、ご感想をお寄せください。また、みなさまの活動についての情報や報告等もお待ちしております。住所・氏名(グループ名)・電話番号を明記の上、郵送、FAX、メールにてお送りください。原稿は400字以内(「つぶやき」は140字程度)、イラスト等は葉書大以内でお願いします。掲載させていただいた方には、500円分の図書カードをさしあげます。

送付先、お問い合わせは、公益財団法人しまね女性センター事業課(0854-84-5514)まで

